



第7回目

【ごはんへの工夫】

アニマル ウェルネス センター
Tel:042-438-7811
Fax:042-438-7812
製作者:看護師
鈴川 舞

加齢や様々な病気により、ごはんを残したり、食べなくなる事も少なくありません。そんな時ほど、元気になってもらうためにもご飯を食べてもらいたいですね。そこで、普段のごはんに少しの工夫をすることで、わんちゃん・ねこちゃんの嗜好性を上げる方法をいくつかご紹介します！

☆ごはんへの工夫

- ウェットフードを体温と同じくらいまで温める。
- ドライフードは少しふやかし、温める事で風味が増す。
熱湯を使うと栄養素が壊れてしまうことがあるので、40℃前後のお湯が良いでしょう。**(※ねこちゃんはドライフードのままを好む子が多いです。)**
- チーズやジャーキー、かつお節などのおやつを混ぜ込む。
⇒塩分を制限する必要がある場合にはあげすぎには注意しましょう。
- 目新しいフードを試してみる。



「美味しい！」と感じてくれる決め手の

8割は匂いです。それ以外に、

質感、味、形状などが関係してきます。

☆あげ方の工夫

- 嗅覚を保つために、汚れていたら湿らせたガーゼで拭くなど鼻をきれいに保つ。
- 唇の上にフードを付け、舐めさせることで食欲を刺激する。
- 少しずつ何度もあげる。
- 手から直接あげる。



⇒海外の研究によると、わんちゃんは飼い主さんの手から与えられたものは美味しく感じる人が多いようです！
お皿からではなく、手から食べさせてあげる事で、反応が変わるかもしれませんね。



注意

冷暗所 ≠ 冷蔵庫

⇒室温との温度差で結露が生じ、
粒が湿る事で風味が低下します。

開封後のフードの保存について

- 鮮度と風味が損なわれないよう、密閉して保存する。
- ドライフードは高温多湿を避け、直射日光の当たらない冷暗所で保存し、1ヶ月以内に使い切る。
- ウェットフードは冷蔵庫で保存し、早めに使用する。(約3日間以内)
⇒ウェットフードをあげたら室温でそのままにせず、食べ残しは片づけましょう。